ボランティア型校内別室について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校入学時点では通常通り登校していたが、１年生の１学期途中から遅刻が増え、夏休みからは部活にも来られなくなり、２学期には不登校の状態になった。保護者が該当生徒からの暴力で教育相談にかかることもあったが、現在の親子関係は良好である。保護者は学校に協力的である。

具体的な取組

○ボランティア型校内別室の利用

週１回、地域のボランティアの方々や担任と会話し、行事等の情報を得ると共に、孤立感や疎外感の解消につなげた。別室の利用条件を緩和することで、他の利用生徒を増やし、同じ悩みを共有できる環境や、同年代の生徒と交流できる条件を整えている。

○特別支援校内委員会

特別支援コーディネーターを中心に学期に１、２回の頻度で定期会議を行い、不登校生徒の個人記録簿の情報などを共有し、今後の対応について幅広い視点から検討した。管理職、学年主任、生活指導主任、特別支援教室巡回指導教員に加え、今年度から不登校加配教員も参加し、学習の情報等も共有できるようにした。

○長欠生徒情報一覧表

長期欠席になっている生徒を対象に、欠席理由や校内外機関とのつながりなどが書かれた学年ごとの一覧表を作成し、校内委員会等で情報共有できるようにした。一覧にしたことで、各種調査にも活用することができるようになった。

○教育支援センターとの連携

教育支援センターに通う生徒が、学校でも力を発揮しやすいよう、教育支援センターでの人間関係や、得意なことなどの情報把握に努めた。そこで得た情報を基にボランティア型別室の環境を整え、登校につながるようにした。

成果

昨年度はＳＣ面談のある週１日のみの登校であったが、週２日以上登校できるようになった。生活習慣も改善し、家庭学習の時間の確保にもつながった。学習意欲が湧き、定期考査にも休まず参加し、教科のワーク等提出物も出せるようになった。

課題

行事への参加や、教室への復帰は果たせていない。今後の進路指導において、ニーズに合った情報提供が必要である。